

第3次総合調査について

総合調査の目的

茨城県内の自然誌に関する資料及び情報の蓄積を図り、茨城県の自然誌科学発展のための基礎資料とする。
そして茨城県の自然の全体像を明らかにすることを目的とする。

- ・日立・阿武隈南部地域の岩石・鉱物について
- ・海塩粒子の測定法
- ・県太平洋沿岸地域の大気中の海塩粒子について
- ・関東ローム層

総合調査実施の方法

茨城県を4地域に分け、各地域を3カ年かけて調査を実施する。

〔第1次総合調査〕（平成6～8年度）

筑波山・霞ヶ浦を中心とする県南部地域の自然

〔第2次総合調査〕（平成9～11年度）

鷄足山塊・涸沼・県央海岸を中心とする県央地域の自然

〔第3次総合調査〕（平成12～14年度）

阿武隈山地・県北海岸を中心とする県北東部地域の自然

〔第4次総合調査〕（平成15～17年度）

鷲子山塊・久慈川を中心とする県北西部地域の自然

〔植物分野〕

〈維管束植物〉

- ・茨城県北東地域の維管束植物

〈非維管束植物〉

- ・茨城県北東地域の海岸の海藻類
- ・茨城県北東地域の地衣類
- ・茨城県北東地域の大型菌類
- ・茨城県北東地域のコケ植物
- ・茨城県北東地域の珪藻類
- ・茨城県北東地域の微細藻類

〔動物分野〕

- ・茨城県北東地域の哺乳類
- ・茨城県北東地域の鳥類
- ・茨城県北東地域の淡水魚類
- ・茨城県北東地域の昆虫類
- ・茨城県北東地域の土壌動物
- ・茨城県北沿岸域の鳥類
- ・茨城県北沿岸域を中心とした魚類
- ・茨城県北沿岸域の海産無脊椎動物

第3次総合調査の内容

〔地学分野〕

- ・里川の地形と堆積物
- ・完新世後退性海浜堆積物の貝類遺骸
- ・多賀層群の層位学的意義と日立層の貝化石

表1. 第3次総合調査委託者.

分野	委託先	代表者	調査区域及び内容
地学	茨城地学会	蜂須 紀夫	調査地域における関東ローム層の調査, 調査地域内の微気象の調査
	成田層研究会	大原 隆	調査地域における堆積相および化石の調査
	阿武隈山地岩石鉱物調査会	田切美智雄	調査地域における岩石鉱物鉱床の調査
植物	茨城維管束植物調査会	鈴木 昌友	調査地域全般にわたる維管束植物に関するフロラ調査
	茨城非維管束植物調査会	中庭 正人	調査地域全般にわたる非維管束植物（蘚苔類, 地衣類, 大型菌類, 海藻類, 淡水微細藻類, 珪藻類）に関するフロラ調査
動物	茨城動物研究会	廣瀬 誠	調査地域全般にわたる哺乳類, 鳥類, 淡水魚類, 昆虫類等のファウナ調査
	茨城の土壌動物調査会	田村 浩志	阿武隈山地における土壌動物のファウナ調査
	茨城の海産動物研究会	森野 浩	調査地沿岸域を中心とした鳥類, 魚類, 無脊椎動物等のファウナ調査

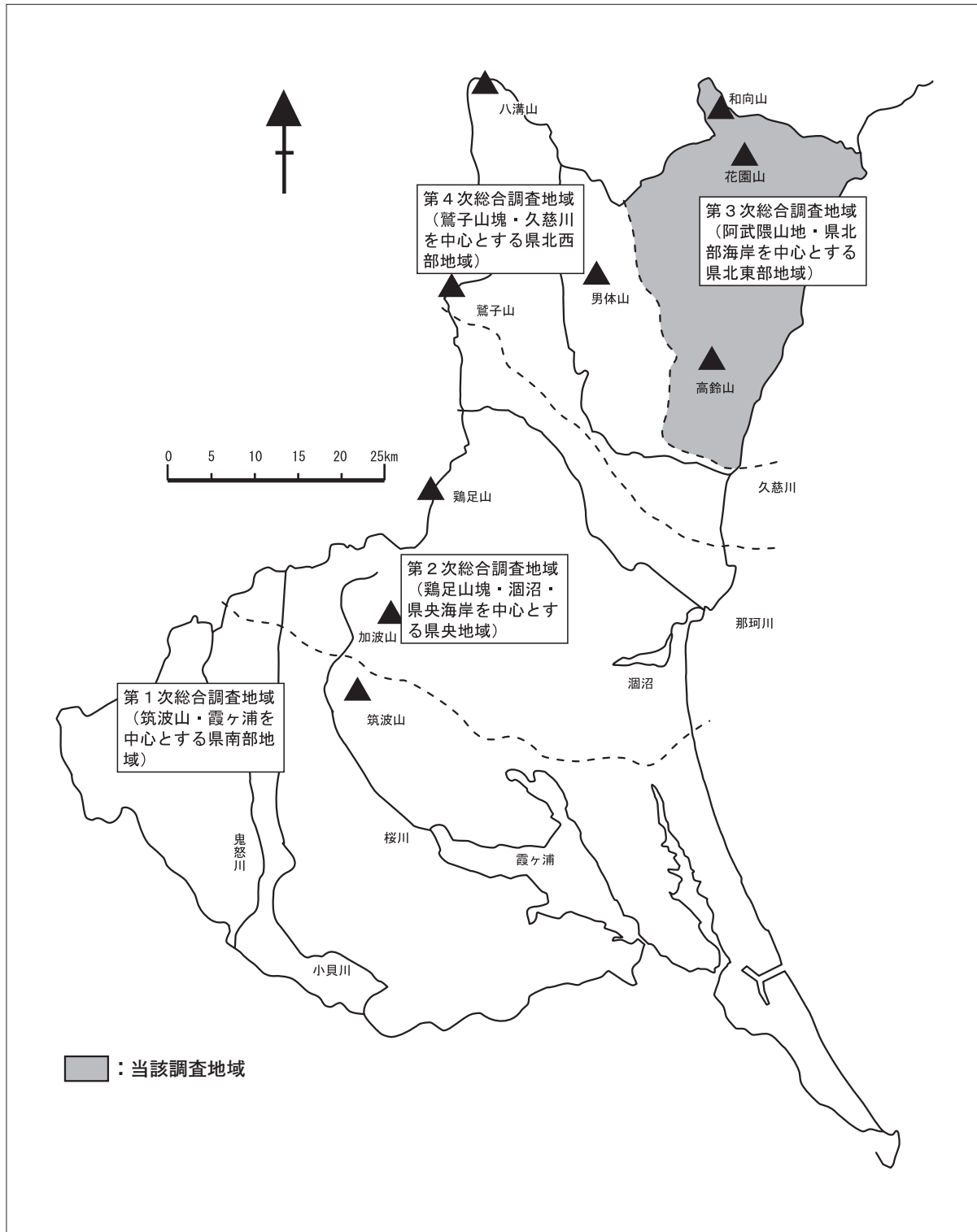


図1. 調査計画区.

地形概要

本地域は、久慈川支流の里川と太平洋に挟まれたくさび状の地域である。その大部分は阿武隈山地の一部であり、高原状の地形を呈している。その東側の太平洋沿岸地域には、第三系の堆積岩類が露出する岩礁地帯が連なり、西側には、ひたちなか市から北北西方向に走る棚倉断層が、里川が流れる直線的な谷を形成している（図1）。

阿武隈山地は、北端部を宮城県に、南端部は茨城県に至る南北200 kmの紡錘形の地域であり、本地域はその南端部に位置している。この山地は、先第三系の花崗岩類及び変成岩類で形成されていて、花園山（798 m）や栄蔵室（882 m）、高鈴山（623 m）などの標高900 m以下の起伏の緩やかな残丘状の山々が高原を形成して

いる。また、その山間を大北川や花貫川、宮田川などが東に流れ、太平洋に注いでいる。

一方、太平洋沿岸地域には、砂泥岩を主とした第三系の堆積岩類が分布している。海岸は、南部では砂浜海岸が広がっているが、日立市以北は岩礁海岸が多く、五浦海岸などの景勝地となっている。また、北部の地層には夾炭層が豊富で、常磐炭田の一部として稼行された。

また、阿武隈山地の西縁を流れる里川付近は第三紀の棚倉断層の活動により、棚倉破碎帯が形成されているため、断層に沿って直線的な谷地形が形成されている。里川河床では、カタクラサイトやマイロナイトなどの圧砕岩類がみられる。

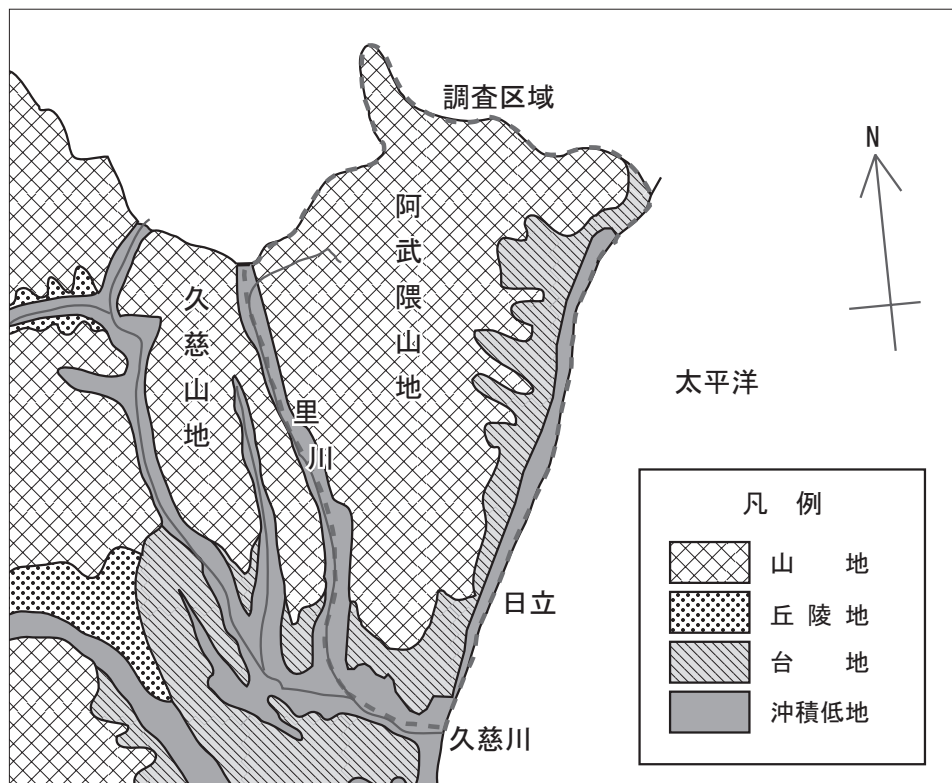


図1. 地形区分図.